

損得を超えて

以前アフリカで援助活動をしていた人が、キリスト教に興味を持ったいきさつを話してくれたことがある。毎日お決まりの生活パターンを繰り返し、仕事が終わると、特に都会のように遊ぶ場があるわけでもなく、もてあました時間を、絵を描いて過ごしたという。大自然を眺め、様々な風景画を書きため、たばこをくゆらす、そんな毎日を送っていた。

ところが、ある日、そこに宣教師がやって来たという。これからさらに先に進むようだが、自分のような職員だったらわざわざそんなところまで苦勞して出かける、と思うような辺鄙な奥地に入っていく、現地の人たちと同じような生活をし、布教活動をしている。布教とは言え、効率の悪いことをしていると思ったという。しかも、自分の身を削って、キリスト教に対して敵対的ですからある集落に向かいに行く。全くこの世の損得勘定の頭で見えていたら、全く奇妙な行動を続ける宣教師に、興味を抱いたと言う。

今や NPO 活動は、どの宗教にも所属せず、キリスト教も、仏教も、イスラム教もあらゆる宗教的背景に対応できる団体であることは言うまでもない。しかし、その活動理念に、どのような姿勢があるかは、一つの宗教に学ぶということはあるだろう。

HFI の前身である HFDJ が設立された当初、大



事にされた精神は、NPO が扱う活動の難しさと困難さを覚えながらも、それをやり遂げる気概を持つことであったと思う。Hope(望み)も Faith(信頼)も、キリスト教の概念であるが、やり遂げるチームを支えることばになろうと思うところがあったのだ。

確かに、NPO 活動が取り組む働きは、そんなに簡単に結果は見えないことがあるかもしれない。人が目を向けないところに敢えて目を向け、無関心に対する啓発を試みていく。さらに、援助事業を成り立たせて行くためには、数知れない苦勞や犠牲があるし、全くもって、無駄であり非効率であると思われるようなことも多々ある。時間ばかりかかって、何一つ積み重なっていないように思わされることもあるかもしれない。

しかし、実際には、損得を超えて動く、そのような苦勞があればこそ、いのちが助けられる。希望を抱く人生が見つけられるということがあるのではないか。一人の感謝と喜びに触れれば、損得も苦勞も忘れ去る。(HFI 代表 福井 誠)

CONTENTS

- 巻頭言 「損得を超えて」 (福井誠) …P.1
- 現地活動報告 フィリピン (田原寿子) …P.2~4
- スポンサーの広場 株式会社KSKテクノサポート様 (事務局) …P.5
- 日本事務局から 活動報告 (事務局) …P.5
- 夏のご紹介キャンペーン実施中／お知らせ …P.6